温故写新

写真で見る「かのや」の今・昔

城山公園にあった市営プール（北田町）

昔　昭和37年

今

城山公園では現在、毎月第4日曜日に「食と暮らしのマルクト@おおすみ」が開催されている。

昭和35年に完成したこのプールは、全長50mで9コースを備える、当時は県内でも数少ない長水路プールでした。写真は「市民水泳大会」の様子です。夏休みの時期には多くの利用者でにぎわっていましたが、湧き水のため非常に冷たかったといいます。緑豊かな公園へと姿を変えた現在でも、市民の憩いの場として親しまれています。

カノヤタイムトラベル

昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ！

信仰を守り抜いた「隠れ念仏」

江戸時代、薩摩藩は一向宗（浄土真宗）を厳しく禁制していました。その理由は一説によると、豊臣秀吉の薩摩征伐で島津氏が敗れたのは、川内の泰平寺に来た秀吉に対して一向宗の僧が道案内や兵糧の世話をしたことが原因だとして、それを遺恨に思っての報復説だといわれています。

明暦2年（1656年）、薩摩藩は一向宗の摘発を行うために、鹿児島城下に宗門改所を設け、各郷にも宗門係を設置。名前や宗派等を書いた木札を身分証明書とし、これをたびたび取り替える「手札改め」を実施しました。その後も残酷極まりない厳しい取り締まりが長年継続されたことから、信者たちは改宗したように見せかけ、隠れて信仰していました。これは「隠れ念仏」と呼ばれ、山村では老木の洞穴に仏像を隠して夜半にこっそり拝んだり、山奥の岩穴を寺代わりにしたり、仏像を農家の茅壁に押し込んでおいたりしました。また、海岸部では舟底に仏像と経典を隠しておき、夜になって漁に出かけるまねをして、沖に漕ぎ出しながら念仏を唱えていたといいます。

信者だということが発覚すると、ほかの信者を探し出すために厳しい拷問にかけられましたが、強い信仰心で信者たちは決して口を割りませんでした。

市内には今もなお、隠れ念仏の洞穴などが残っており、厳しい禁制の歴史と信仰の偉大さを伝承し続けています。

吾平町上名の「隠れ念仏洞穴」。岩屋の高さは1mほどで、人が掘った跡がある。

輝北町諏訪原の「隠れ念仏洞穴」。天井が低く、読経が漏れないようにジグザグに作られている。